**第7章　水産業**

**概況**

　本府の漁業は、瀬戸内海に属する大阪湾の東半分を主要漁場とし、主として内湾性の魚介類を漁獲対象として営まれる沿岸漁業である。  
　大阪湾の南北に連なる屈曲の少ない海岸線は、府下８市４町にまたがっている。流入河川は多く、餌料生物は豊富で、漁業資源に恵まれている。また、単位面積当たりの漁獲量は瀬戸内海でも上位にランクされている。  
　主な漁獲物は、魚類では「いわし」、「いかなご」、「このしろ」、「さば」、水産動物類では「しらさえび」、「がざみ」、「しゃこ」、「こういか」、「まだこ」、貝類では「あさり」、海藻類では「わかめ」などである。  
　また、漁港は昭和62年３月末現在で12港、そのうち第１種は８港、第２種又は第３種が４港となっている。

**海面漁業経営体・登録漁船数**

　昭和58年11月１日現在で実施された第７次漁業センサスの結果、本府の漁業経営体数は、第６次漁業センサス（昭和53年11月１日現在）の791経営体から49経営体（6.2％）増加して840経営体となった。このうち、個人経営体は796経営体で、総数の94.8％を占めている。  
　昭和62年末現在の登録漁船数は1786隻で、前年より65隻　（3.8％）増加している。このうち、動力船は1748隻で、前年より68隻（4.0％）増加しているが、無動力船は38隻で、前年より３隻（7.3％）減少した。

**海面漁業漁獲量**

　昭和61年中の総漁獲量は７万3747 t で、前年より6184 t（9.2％）増加した。  
　これを市町別にみると、岸和田市が４万5014 t（構成比61.0％）で最も多く、次いで泉佐野市１万105 t（同13.7%）、大阪市7001 t（同9.5％）となっており、この３市で全体の84.2％を占めている。  
　　漁業種類別にみると、まき網が６万3222 t（構成比85.7％）と大部分を占めており、以下、パッチ網6486 t （同8.8％）、底びき網1963 t（同2.7％）の順となっており、この３漁業で全体の97.2％を占めている。  
　また、魚種別でみると、魚類が７万2106 t （構成比97.8％）と漁獲量のほとんどを占めており、以下、水産動物類が1206 t （同1.6％）、海藻類402 t（同0.5％）、貝類33 t（同0.0％）の順となっている。魚類のうちでは、「いわし」が５万9437 t で最も多く、全漁獲量の80.6％を占めている。

**内水面漁業漁獲量**

　昭和61年中の内水面漁業漁獲量は13 tで、前年より3 t減少した。この減少傾向はこの数年続いており、昭和55年の漁獲量（30t）の半分以下となった。  
　主な魚種別にみると、「あゆ」が8 t （構成比61.5％）で最も多く、以下、「こい」、「ふな」、「うなぎ」が各１t （同7.7％）となっている。

**内水面養殖業収穫量**

　昭和61年中の内水面養殖業収穫量は825 t で、前年より100t（13.8％）増加している。  
　養殖魚種別に主なものをみると、「ふな」が613 t（構成比74.3％）で最も多く、以下、「こい」63 t （同7.6％）、「うなぎ」40t（同4.8％）、「にじます」36 t （同4.4％）の順となっている。